

オルガン



鍵盤音楽の 歴史と 世界のピアノ曲を 巡るステージに

鍵盤楽器の歴史と世界のピアノ曲を巡る

ピアノ300年記念コンサート

◎ 2009年8月28日(金)

◎ 東京芸術劇場大ホール

[主催・共催] 社団法人全日本ピアノ指導者協会・財団法人東京都歴史文化財団
社団法人日本ピアノ調律師協会

イタリアのクリストフォリが、ピアノの仕組みを発明してから、およそ300年。ピアノの生誕記念を祝うイベントが各地で開催される中、ピティナでは、『ピアノ300年記念コンサート』を東京芸術劇場大ホールで開催。社団法人日本ピアノ調律師協会、財団法人日本歴史文化財団と提携して開催した『祝ピアノ300年』(8月28日～30日)の初日を、華やかに飾った。

(文・構成:霜鳥美和)

前半第1部のテーマは、「鍵盤楽器の歴史探訪」。ピアノが誕生した300年前よりずっと以前から愛好されていた鍵盤楽器の音色を鑑賞しながら、鍵盤楽器がどのように発達し、現代ピアノにはどんな特徴をもっているのかを、ピアノを学ぶ子どもたちにも知ってもらおう、という主旨だ。時代背景などを学びながら、3種のオルガン、チェンバロ、フォルテピアノそれぞれの音色の魅力が活かした音楽を満喫した。

「鍵盤楽器の歴史を振り返るとき、その進歩は、単なる技術の進歩として語られるべきものではありません。社会や文化の移り変わりと共に、楽器の役割や音楽も変わっていき、当時の作曲家の思いが新しい楽器や音楽を作っていくといったように、様々な要素が影響し合って、鍵盤楽器とその音楽は発展してきたということが出来ます。第1部は、オルガン、チェンバロ、フォルテピアノという3種類の鍵盤楽器の演奏とトークを通して、ただ目の前の楽譜と向き合うのではなく、曲の背景にある世界を知ることが、演奏や鑑賞をより豊かにするのだということを、改めて教えてくれるものだったように思います。(第1部レポーター・笠井悠)」

後半第2部のテーマは、「ピアノ曲の世界旅行」。改良を重ねながら発展したピアノが、クラシック音楽の基本形ができたドイツ・オーストリアを出発点に、ヨーロッパ全土、ロシア、アメリカ南北、日本・アジアに拡がり、各地の文化と融合しながら、様々

チェンバロ



左写真・オルガンに続き、チェンバロの音色の世界に。芝崎久美子先生の軽やかなチェンバロの演奏と、浜中康子先生、岩佐ジュリ先生の上品なバロックダンスに、会場はうっとり。中世の宮廷舞踏会に迷い込んでしまったような雰囲気になりました。

右写真：鍵盤楽器の歴史のスタートは、2000年以上の歴史を誇る「パイプオルガン」。約9000本のパイプを最大限に生かした大塚直哉先生の演奏で、様々な音色が響き渡った。途中、ルネサンス・バロックオルガン面が回転し、モダンオルガンが登場。会場が沸いた。第1部のナビゲーターは、武田真理先生。

古楽器体験コーナー



上写真：コンサート終了後は、子どもたちを対象に、クラヴィコード、チェンバロ、フォルテピアノの古楽器体験コーナーを実施。実際に鍵盤に触れ音を出しながら、鍵盤楽器の歴史を体感してもらった。

右写真：第1部最後は、ピアノ300年の歴史の始まり、フォルテピアノの音色の世界に。久元祐子先生の演奏による「ヴァルター」と、大関博明先生の演奏による1680年製のヴァイオリンとの息の合ったデュオ。モーツァルトの時代をそのまま再現したようなステージに。

フォルテピアノ



左写真：第二部のテーマは、ピアノ曲の世界旅行。このテーマの通り、根津理恵子先生（右上）、江崎昌子先生（右下）、鈴木弘尚先生（左上）、黒田亜樹先生（左下）の4名のピアニストによって、西欧・北欧・東欧・南欧・ロシア・日本・アメリカ・南米を代表する様々な名曲が演奏された。



モダンピアノ



なピアノ曲が生まれたことを、1時間の中で少しでも感じ取ってもらいたい、という願いを込めた。大ホールの隅々にまで響きわたる現代ピアノの音色、ピアノ曲の多彩さに、ピアノの誕生とその歴史に、改めて感謝の気持ちを強めたコンサートとなったにちがいない。

「世界各国を代表する様々な作曲家の作品を堪能することを可能にした第二部では、ピアノという楽器の素晴らしさを改めて感じる事ができました。独自の表現を模索して名曲を生み出した作曲家。独自の解釈のもと、その作品を演奏するピアニスト。様々な良き出会いにより、ピアノの輝きは一層増すのだと思いました。多様な文脈の中で、作曲家によって作品の特徴は異なり、演奏するピアニストによって作品の表現は異なるものになります。そのような意味において、ピアノ作品には一種の前衛的要素があるのではないかと思います。ピアノが多くの出会いの中で発展を遂げ、その可能性はこれからも無限であることを強く感じました。（第2部レポーター：望月麻那）」

詳細のレポート、

出演者のコメント、ダイジェスト動画など、ピティナ・ホームページ「ピアノ300年記念コンサートレポート」にて公開中。



上写真：終演後の演奏者とともに。近隣の大学生・音大生7名が、このステージの準備や当日の運営にインターン生として関わった。